



**YANMAR**

# **COMPANY PROFILE**

ヤンマーキャステクノ株式会社 甲賀事業部 / 会社案内

## 会社概要

- 商号 ヤンマーキャステクノ株式会社
- 会社設立 2007年2月
- 売上高 124億円
- 出荷トン数 33,388トン
- 従業員 409名(2018年度実績)
- 本社・松江事業部 島根県松江市八幡町960番地〈旧 マツエディーゼル(株)〉  
[売上高]48億円 | [出荷トン数]10,042トン | [従業員]194名
- 甲賀事業部 滋賀県湖南市柑子袋360番地〈旧 甲賀精密鑄造(株)〉  
[売上高]76億円 | [出荷トン数]23,346トン | [従業員]215名

## 甲賀事業部沿革

- |                 |  |
|-----------------|--|
| 1970(昭和45)年     | 甲賀精密鑄造(株) 設立<br>資本金3,000万円 JSS造型ライン(新設) 操業開始 |
| 1972(昭和47)年     | 十三工場閉鎖 AFD造型ライン移設                            |
| 1983(昭和58)年     | 立形水冷エンジン用ブロック・ヘッド本格量産                        |
| 1992(平成4)年      | アルミ工場 操業開始                                   |
| 1998(平成10)年     | GF造型設備導入 砂処理新設ES造型ライン 撤去                     |
| 1999(平成11)年     | AFD造型ライン 撤去                                  |
| 2001(平成13)年     | JSS造型ライン 撤去                                  |
| 2006(平成18)年     | ISO9001 認証取得                                 |
| 2007(平成19)年 2月  | ヤンマーキャステクノ設立(甲賀・松江統合)                        |
| 2008(平成20)年 1月  | KDM造型ライン 立ち上げ                                |
| 2009(平成21)年 2月  | ISO14001 認証取得                                |
| 2013(平成25)年 9月  | ヤンマーインドネシア(YID) 設立支援                         |
| 2015(平成27)年 10月 | アルミ工場 生産終了                                   |
| 2015(平成27)年 11月 | 電気炉操業開始(キューボラ廃止)                             |
| 2017(平成29)年 6月  | Mini Max ブロック加工 開始                           |
| 2018(平成30)年 5月  | 仕上げブロックライン整流化                                |
| 2018(平成30)年 8月  | 仕上げヘッドライン整流化                                 |
| 2019(令和元)年 8月   | 仕上げヘッドラインブース化                                |
| 2020(令和2)年 1月   | 甲賀事業部 設立50周年                                 |

ヤンマー  
【ミッションステートメント】

ヤンマーキャストテクノ  
【ミッションステートメント】

わたしたちは

自然と共生し

いのち  
生命の根幹を担う

食料生産とエネルギー変換の分野で

お客様の課題を解決し

未来につながる社会と

より豊かな暮らしを実現します。

わたしたちは

未来に挑み続け

キャストイングテクノロジーで

「最高の一品」を提供し

豊かな社会と

新たな価値の創造に

貢献します。

【ブランドステートメント】

**A SUSTAINABLE FUTURE**

テクノロジーで、新しい豊かさへ。

KANAMORI  
SYSTEM Inc.

ヤンマー創業者である山岡孫吉は1912年(明治45年)ヤンマーの原点である「山岡発動機工作所」を創業、1933年(昭和8年)世界で初めてディーゼルエンジンの小型化に成功しました。以来、ヤンマーは農業機械、建設機械など各種産業機械向けディーゼルエンジンのバイオニアとして、パワフル&クリーンな製品を国内外に幅広く展開しています。

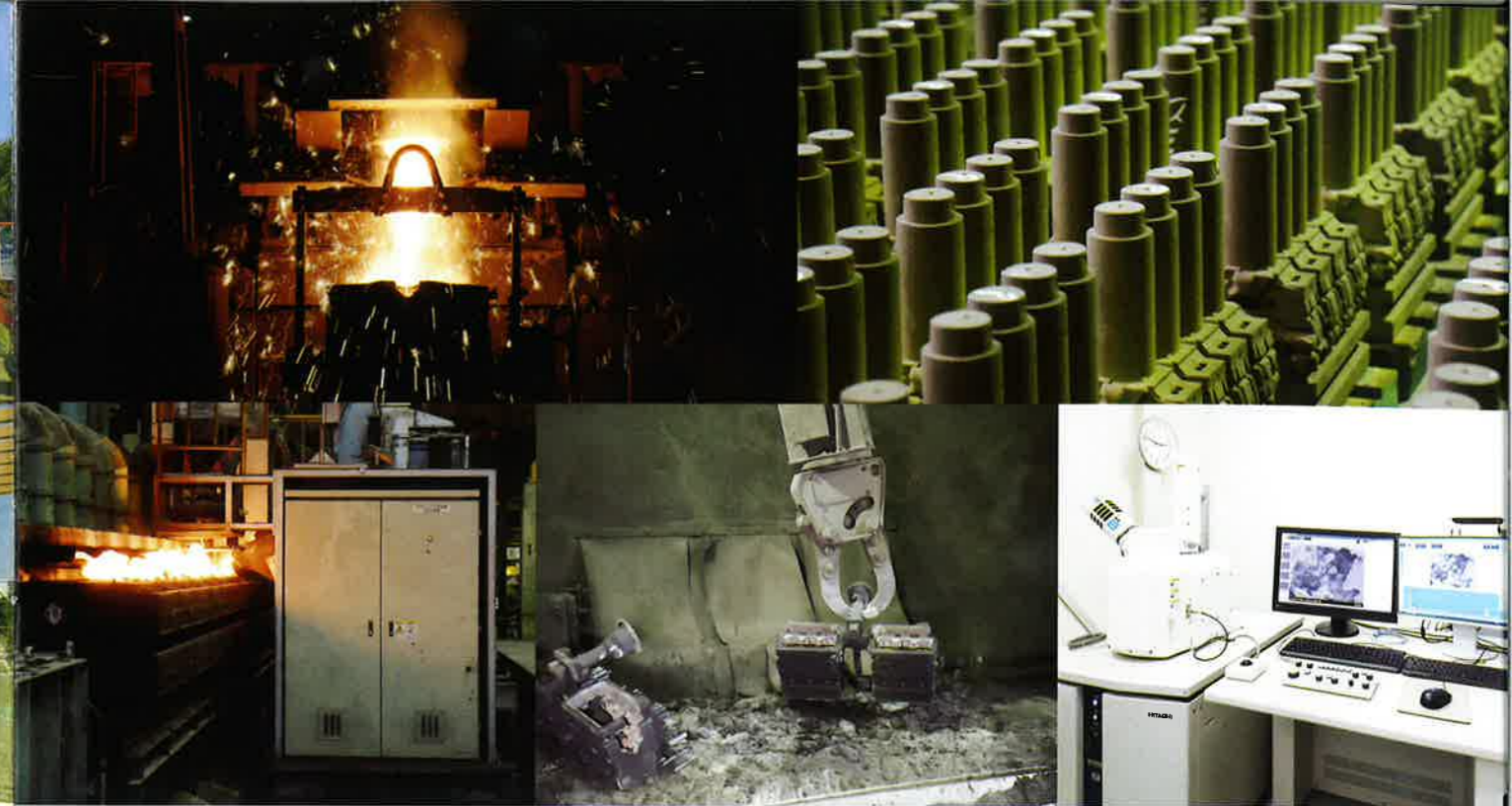
そして、そのエンジンの心臓部ともいえるシリンダヘッド、シリンダブロックの鋳物の鋳造を行っているのがヤンマーキャストテクノです。

溶かした金属を型に流し込み、自由自在に形状を形成していく鋳物。鋳物は最も古いものづくりのひとつですが、耐摩耗性、耐食性、減衰性にも優れています。

永きに亘り変わらない製法に、蓄積された経験、ノウハウ、最新のテクノロジーを取り入れヤンマーエンジンの心臓部を造りこんでいきます。

1,500度の熱と社員の情熱で……。

ヤンマーキャストテクノ株式会社  
YANMAR CASTING TECHNOLOGY CO.,LTD.



ヤンマーキャストテクノ株式会社 YANMAR CASTING TECHNOLOGY CO.,LTD.

**会社設立** 2007(平成19)年2月



▲本社・松江事業部



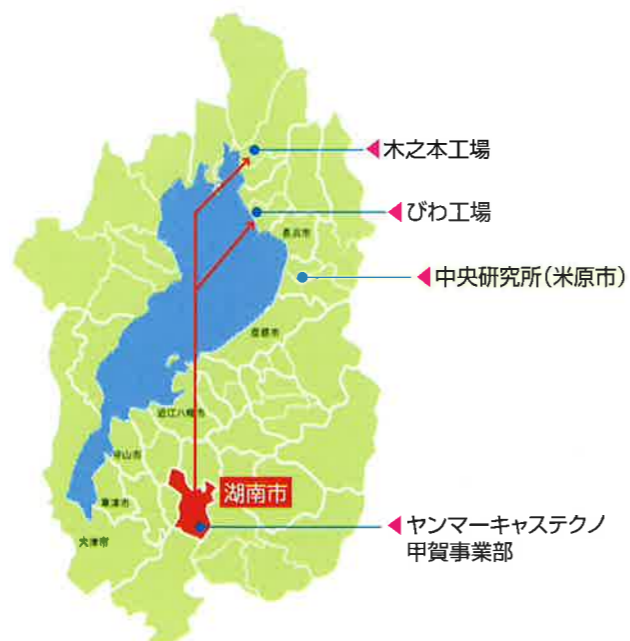
▲甲賀事業部一鑄鉄工場・事務所

**本社  
松江事業部** 島根県松江市八幡町960番地  
〈旧 マツエディーゼル(株)〉

**甲賀事業部** 滋賀県湖南市柑子袋360番地  
〈旧 甲賀精密鑄造(株)〉



▲甲賀事業部一機械加工工場



**鑄物と鑄造**

砂や金属で作った型の中に溶かした金属を注ぎ込んで必要な形にする加工法のことを「鑄造」と呼び、鑄造法により成形された品物が「鑄物」です。

**神秘の技法「鑄造」**

何も無いところから 思い通りの形に"モノ"を造り上げる、それが鑄造技術の原点です。その歴史は古く、紀元前4000年頃、メソポタミアにて始まったと伝えられています。しかし、今なお、論理的にも解明できない部分があり、神秘の技法といっても過言ではありません。ヤンマーキャストテクノは、これまでの豊かな経験とノウハウに加え、最先端のテクノロジーを駆使し、世界最高の鑄造技術を追求し続けます。

**CASTING TECHNOLOGY**

社名の英字表記である「YANMAR CASTING TECHNOLOGY」の「CASTING」は鑄造を意味します。ヤンマーキャストテクノはその名の通り、鑄造に特化した会社です。

**使 命**

ヤンマーキャストテクノの鑄造製品は、主にエンジンのシリンダヘッド、シリンダブロックなどエンジンの心臓部となるパーツです。信頼性が高く、高効率なエンジンを製造していくために、非常に精密な寸法、高度な品質を要求されます。常に技術革新を追求することにより、お客様に喜ばれる付加価値の高い鑄造製品を提供し、未来につながる新しい価値を創造していく、それがヤンマーキャストテクノの使命であると考えています。

# Products

ディーゼル/ガスエンジン用 シリンダヘッド



豊かな経験と  
先進の鋳造技術が  
エンジンの未来を拓く

船用 シリンダヘッド



ディーゼル/ガスエンジン用 シリンダブロック



# Process Flow 無から有へ



機械加工工場内



# Technology 鋳物は科学技術

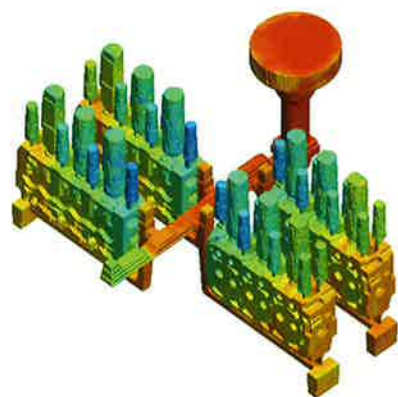
先進の技術を駆使して、鋳造品質の向上、新規技術の確立を行っています。



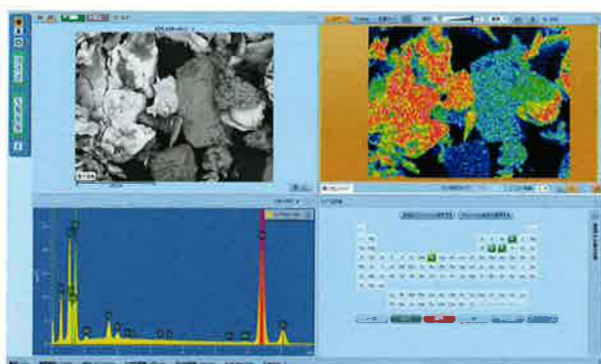
非接触型3Dスキャナーを使用して詳細形状評価を行うことで製品の精度保証を行うことができます。  
また、得られたスキャンデータを利用して鋳造解析、3Dプリンターなどの先端機器を駆使し、高品質・短納期の鋳造を行っています。



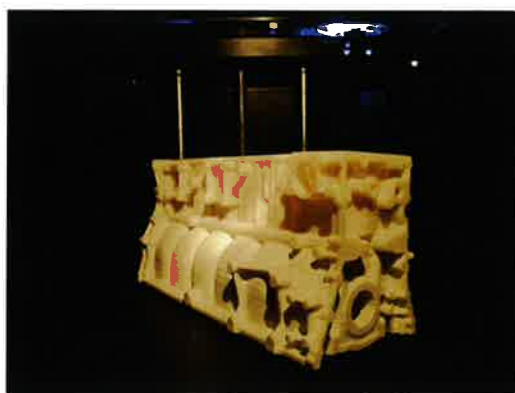
電子顕微鏡で鋳造欠陥調査を行い、発生メカニズムを推定し不良対策や新規部品の立ち上げに活用しています。



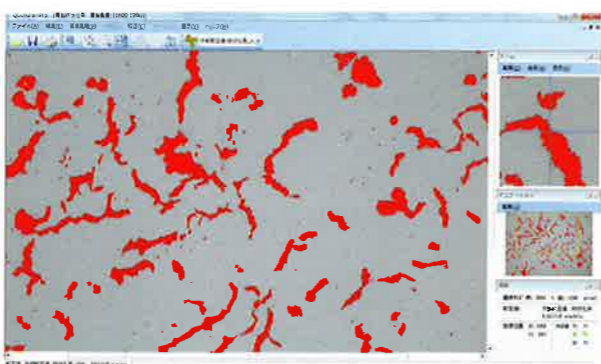
鋳造解析(湯流れ)



鋳造欠陥発生原因の特定・推定  
異物のSEM/EDX分析



3Dプリンターモデル



組織の健全性を数値的に評価  
鋳鉄ミクロ組織の画像解析

# Environment 地球にやさしい

自然環境に配慮しています。

## 消臭装置・脱臭装置の設置

### ■ 消臭装置

消臭液を噴霧。消臭液が臭気の原因となる物質を取り込み、化学反応を起こし中和することにより消臭を行います。



消臭装置

+

臭気低減

### ■ 脱臭装置

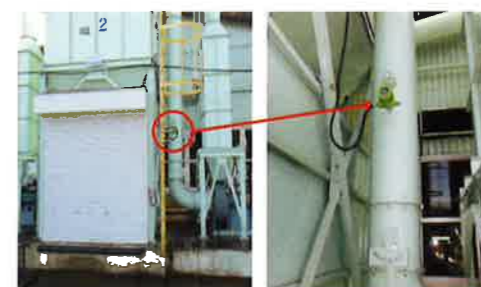
濾布外周に均一に形成された脱臭膜で吸引した臭気を捕集し脱臭を行います。



脱臭装置

## ダストモニターの設置

集塵機から排出する気体のダスト濃度を24時間リアルタイムで監視します。



## エアサンプラーの設置

工場の東側、西側に設置し、大気中の浮遊粉塵を捕集し、東西の捕集量の差から流入量・流出量を監視します。



## コージェネレーションシステムの導入

廃熱を利用して構内空調、砂の冷却を行っています。

